

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム夢あかり	評価実施年月日	平成20年2月1日
評価実施構成員氏名	杉村由勝 重島三栄子 野村貴史 林 礼子 竹内絹代 石垣貴嗣 源常知子		
記録者氏名	重島三栄子	記録年月日	平成20年2月28日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームが地域の一員としての機能を有し、利用者が地域に馴染み生きがいを感じて暮らしていく事を支援する事業所独自の理念を作り上げている。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	入社時研修及びミーティングや介護の現場等で日々伝えている。生活の中で実現可能な目標をケアプランに盛り込み支援を行っている。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームパーティ『焼き肉、誕生日会』等の行事を通じて入居者、家族の方、地域の方の交流を図り理解してもらえるように取り組んでいる。運営推進会議を開催しさらに交流の促進に努めている。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に声をかけたり、挨拶をおこなっている。ホームにも気軽に立ち寄って下さる。隣近所の方々も理解があり、夏期は庭の草とり、畑作業 冬期は玄関前の雪かき等自主的に入居者、職員と行って下さる。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の会合(総会等)に出席し、地域との交流を深めている。地域の幼稚園とも交流を持ち、運動会への参加、園児や保護者がホームに慰問に来訪し入居者、家族、近隣の方との交流を深めている。		
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者と関わりを持ち、馴染みの関係を築きながら町内会を含め、運営推進会議等において役に立てる事がないか話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員の自己評価の意義を説明し、定期的に自己評価を行い改善点があれば具体的に検討し改善策に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で助言、要望、指導などがありましたら議事録を作成し職員に周知し検討しサービス向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>小樽市の担当者は、参加していないがサービス提供の上で不明な点及び問題点が、あればその都度確認している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>運営者、管理者、ケアマネージャーは、外部研修に参加しているが職員は未参加なので今後研修に参加させ必要性を理解していただく。</p>	○	今後、職員にも研修に参加してもらおう
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束委員会を設置し、月1回の会議で報告し、拘束、虐待の言動及び行動について常日頃、注意し防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時は、運営者、管理者が同席し契約締結を行い、わかりやすく説明し疑問があれば時間を十分に取説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム内に苦情処理委員会を設置し外部、ご家族、利用者の不満、苦情があればその都度委員会で検討し、解決策に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>金銭管理は出納帳を作成し、定期的に報告、郵送して確認して頂いているが職員の異動は、報告していない為、今後検討するよう取り組む。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族が来訪した際には近況報告をし、改善点、意見等がないか、普段のコミュニケーションの中から引き出すよう取り組んでいる。意見等ができれば即座に内容を検討し、運営に活かしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1度の全体会議で発言の場を設けており又、緊急性があれば運営者を交え解決策に取り組んでいる。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者主体で勤務時間の調整を行っている。不都合が生じたらその都度話し合っている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職については多少はあるが出来るだけ馴染みの関係を壊さないように工夫し離職理由をわかりやすく説明しダメージを防いでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>社内外の研修を計画し研修報告を行い質の向上に努めている。</p>		道、市のグループホーム協議会の研修に参加している
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>年数回、同業者との情報交換や交流あり。</p>		道と小樽市のグループホーム協議会に加盟し、定期的に交流を持っている
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>業務の負担、ストレスがないように協力工夫している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>悩みがある時は相談に乗り、助言や指導をしている。</p>		できる限り、職員と会話する機会を作っている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談にこられた際に、ご本人の困っていること、不安に思っていることを安心してお話のできる雰囲気、場面づくりをして、ゆっくり聞き取る。そして、受けとめ、その人らしい安心した生活に結びつくよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談にこられた際に、ホームの生活を見て頂きながら、ご家族の困っていることや不安に思っていることを聞き取り受け止めるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自宅での生活が他のサービスで継続できるなら、そちらの方向にして、本当に困難になった時に再度、話し合うようにしている。		自宅での生活が困難か本人、家族、関係者と話し合う機会を作っている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前訪問を行ったり、見学に来てもらい本人にもホームの様子を理解してもらる場面作りをしている。見学に来た時に職員とあいさつをしたり、入居者の普段の様子を見てもらい、ここでも生活できると思えるようにしている。		本人だけでなく、家族の希望も聞いて、持ち物を決めている。家族との絆となるものを居室に置いてもらっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に調理などをして、職員に教えてもらったり、手伝ってもらっている。悩みのある時は、居室で話しを聞いて、一緒に解決策を考えている。レクの時の写真を掲示している。		入居者の相談にはすぐ対応している。誕生会レクなどの写真を居室に飾っている。体調に変化のある時は、早めに受診している。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	誕生会に家族にも参加してもらい、一緒にお祝いしている。家族からの相談は、相手の都合に合わせ、機会を作っている。ホーム内の様子を広報誌にして毎月、家族に送付している。体調に変化のある時は、すぐに家族に連絡している。		写真を多くした広報誌を作成し、家族に送付している。医師との重要な話の時には、家族にも同席してもらうようにしている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族の意向を聞き、生活がより良い方向になるように調整し、言いづらいことは代弁している。中立の立場で接している。		家族だけで解決できない時は、両者の関係が悪化しないように努めている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙は自由で、面会も時間が遅くても可能である。以前に行っていた所と一緒に外出している。病院等も希望があれば、以前の病院に通院している。		理美容などは入居後も継続して通えるようにしている。知人にはいつでも面会に来て下さいと伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員全員が入居者の関係を把握し、トラブルを回避している。入居者ができることは共同でできる場面を作っている。		食事の後片付けなど、入居者で分担して行っている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院等で退去になった時は、お見舞いや面会に行く。家族からその後の生活の状況を聞くようにしている。		家族と関係を継続できるように取り組んでいる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を聞き、本人との会話が困難な時は、家族の要望を聞くように努めている。職員は入居者との関わりを大事にし、意向の把握に努めている。		定期的にケアカンファレンスを行い、検討している。必要であれば、ケア内容を変更している。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、趣味、特技等を聞き、職員全員で情報を共有するように努めている。他のサービスを利用していれば、その事業所から情報をもらうように努めている。		本人が話づらいことは、家族から情報を得ている。入居後わからないことがあれば、以前利用していた事業所に確認している。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各入居者の様子を毎日の申し送りで報告し、新しいことを試みたときも様子を毎日報告している。疾病は小さな変化も報告に努めている。		毎月、定期的に入居者の様子を書面で提出してもらい状況把握している。かぞくが面会の際は、帰りに様子を聞いている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	プラン作成は、本人、家族、職員で本人の能力を確認しながら行っている。受診の際に医師から、指示、助言を受けている。		定期的にケアカンファレンスを行い、本人の状況を確認している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しを行うだけでなく、現状に合わない時は、その都度変更をしている。本人、家族の意向を聞き、必要に応じて、カンファレンスを行っている。		本人、家族の意見だけでなく、医師の助言も受けるようにしている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランの内容やその日の様子がわかるように、チェックシートを作成し、活用している。大きな変化、体調に変化があれば、プラン、ケア内容を変更している。	○	各入居者に合わせたチェックシートを作成し、日々の記録に活用している。くわしい記録の記入、書き方の指導を行う
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	体調に変化がある時、本人から受診の希望がある時は、早めに受診している。理美容に行く希望も介助の下外出している。		気分転換もできるように急な外出、買い物等への対応、支援を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員や警察との協力体制はできていない。消防には避難訓練で協力してもらっている。近隣の幼稚園の運動会に参加したり、園児の慰問を受けている。	○	今後は民生委員、警察と協力できる体制作りをしていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の状況に合わせて、福祉用具貸与事業所からベッドをレンタルしたり、杖、靴などを専門員に見てもらい、購入している。		福祉用具はレンタル、購入に関わらず、定期的に点検してもらっている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの連絡、協力体制はできていない。入居者の介護度や状況から必要性が低かった。	○	入居者の状況に関わらず、今後は連絡を取り合い、協力してもらえる体制を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日常の健康管理としてバイタル測定、服薬管理、食事管理、排泄援助を行っている。医療支援の活用として定期的に受診し、医師に状況を伝え、健康状態を把握、良否を判断してもらっている。		一部の入居者は往診してもらい、緊急時は点滴等の処置を受けたり、入院できる体制をとっている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者の精神面、身体面において日中、夜間と申し送りで職員間で情報交換をし、定期的に専門医に受診、検査を行っており、相談している。		日中、夜間の様子の情報を職員で共有し、症状が悪化した際は、早めに受診している。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員の確保はされていないが、日常の健康状態は定期的な主治医に報告し、指示、助言をもらっている。	○	地域の看護師と連携をとれるようにしていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院に必要な備品の準備、家族との連絡を密にしている。医師、家族と話し合う機会を持ち、職員も入院中の状況把握をし、いつ退院しても受け入れられる体制を整えている。		入院時より退院まで病院と連絡を密にし、家族との連絡も密にとっている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ADLの低下においても残存機能を見出し、家族との話し合いを持ち、医療等とも連携を図っている。	○	食事の困難な方には、食事介助をし、歩行困難な方には車イス等の対応をしている。 本人、家族の要望をしっかりと取り入れていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	救急時の医療体制、特定疾患を持っている方の緊急時のマニュアルを作成している。特変時にはかかりつけ医に緊急受診している。		特変時の緊急受診や糖尿病の方の低血糖時の対応のマニュアル作成をし、病院との連絡体制を整えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人家族と話し合い、使い慣れたものを持ってきてもらい、気持ちの落ち着く空間を提供している。他入居者、職員と楽しみを共有し、精神面の安定を図り、ADLIに合わせて入居者で作業をしている。</p>		<p>しっかりと話し合いをおこない、使い慣れた家具や身の周りのものを用意してもらっている。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>普段の丁寧な言葉だけでなく、方言を交えたり、場面に合わせて言葉をえらんでいる。記録等は、職員以外は見られないように取扱いに留意している。</p>	○	<p>身障者用のトイレではカーテンで視覚をさえぎるようにしている。記録は、入居者の目に触れないようにしている。トイレの回数の確認の際、他の入居者に分からないように取組んでいく。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ケアプランの内容でも拒否時は、無理強いすることなく、本人の意思を尊重し、自己決定の支援をしている。常に声かけをして、思いを引き出すようにしている。</p>		<p>したい事を聞き出すようにしている。ADLIに合わせてできることを納得したうえでやっている。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々のライフスタイルに合わせて、外出等の希望にも天候等を考慮して、極力受け入れるようにしている。</p>		<p>敷地内や近所への散歩をしたり、園芸、菜園など居宅での生活の延長として楽しみや趣味ができるように支援している。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容をお願いしたり、希望の美容室があれば、送迎してお店に行けるように支援している。</p>		<p>訪問理容の利用やなじみの美容室への付き添い、介助を行っている。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員だけが調理をするだけでなく、ADLIに合わせて、入居者にも調理、盛り付けを手伝ってもらい、後片付けも入居者がほとんどを行っている。</p>		<p>入居者に食材切り、盛り付けや時には、調理を行ってもらっている。旬の食材や山菜を取り入れている。後片付けは入居者が分担して行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好に合わせて、コーヒー、紅茶を提供している。医療機関に入院、入所していた時の嗜好品の摂取を継続している。		家族から飲み物やおやつの差し入れがあり、好きな時に摂取している。コーヒーなど希望により提供している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各入居者の排泄パターンを把握し、声かけや食前食後、就寝時に誘導をして失禁を防止するように努めている。		失禁ないように夜間、時間を計って声かけをしている。便秘の時は、主治医から処方された薬を服用している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯の設定はあるものの入居者の体調に合わせて、また、希望を考慮して実施している。入浴時間は、会話や歌などコミュニケーションを楽しむ時間になっている。		ADLに合わせてできることはしてもらい、入浴にかかる時間は制約はなく、ゆっくり入ってもらい楽しんでもらっている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ふらつきのある方などは、車イスを使用し、トイレまで移動して失禁をしないようにし、身体面だけでなく、精神面も安心できるように支援している。		呼び出しのコールを設置し対応している。眠れない時は温かい飲み物を用意し、気持ちを落ち着かせたり、日中運動してほどよく疲れが残るようにしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常の役割として、調理や食器洗い、縫い物等をしている。1年を通じて誕生会や地域交流の行事、外出レクを行っている。	○	季節の行事や誕生会、地域交流として焼肉パーティを行っている。今後は、外出レクの回数を増やしていく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知力の低下により、お金の保管は、家族の了承を得てホームでしている。一緒に買い物をする時は、職員が、所持し、支払っている。	○	今後は、買い物の際、本人にも金銭の授受をもらう。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の体調、天候にもよるが、ホーム周辺の散歩をしたり、近所に買い物に行っている。		スーパーへの買い物、近所の喫茶店へ外出している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者全員で大型商業施設や花見、ドライブ等の外出をしている。	○	個別に行ける機会を増やしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は自由にでき、番号を押して受話器を渡している。手紙は一緒にポストまで行き、投函している。		電話は居室でもできるようにして、プライバシーに配慮している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも自由に訪問、面会していただけるようにしている。		来客者があったら、いすを置いてゆっくりしていただけるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、拘束しないケアに取り組んでいる。		拘束したことはなく、今後も継続していく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関には鍵をかけず、ドアセンサーを設置して、人の出入りがわかるようにしている。		センサーが作動した時は、必ず玄関を確認している。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士がプライバシーに配慮しながら、入居者の所在、様子を把握して、安全に配慮している。		職員は入居者がどこにいるか声を掛け合い、安全に配慮している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の刃物等は、本人・家族の了承を得て、事務所で保管し、ホームの危険な物は、入居者の手の届かない所に保管している。		はさみ等を使える方は、居室に置いてあり、状態の悪い方は職員がついて使用している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月に1度の会議で事故防止に努めている。事故の認識を持ってもらっている。		ヒヤリハットの時は、職員で状況を確認している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、初期対応の訓練をしている。		各入居者に合わせて対応している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署に来てもらい、避難訓練、消火訓練を行っている。		訓練の評価、指導を受けている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	受診の結果を家族に伝え、本人にどのように生活を送ってもらうか話し合いをしている。		受診の時に家族にも同席してもらい、医師の話をきいて、話し合いをしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送りを利用し、体調の変化、バイタルを伝えている。緊急時は主治医に連絡している。		日中だけでなく夜間でもすぐに連絡する体制をとっている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の情報をファイルにして、職員にもわかるようにしている。飲み込みを確認してから入居者から離れている。副作用を職員に説明し、観察している。	○	今後は、薬に対しての勉強会を開いていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品や食物繊維の多い野菜等の摂取を心掛け、メニューの内容や1日の水分量を確認している。適度な運動を取り入れている。		水分量が少ない方には、促して摂取してもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後に口腔ケアを行い、舌苔の処理を行っている。定期的な歯科検診をしている。		自主的にしない方は、声かけして行うようにしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員でバランスの取れたメニュー作りをしている。全員の食事、水分の摂取量を把握している。入居者の状態により医師に相談している。		食事の形態の工夫や栄養の補助となるものを処方してもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを徹底し、来客者にもお願いしている。		職員は出勤時にうがい、手洗いをし、入居者も外出後は手洗いうがいをしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な物を購入し、日付等の確認をしている。おしぼりや台所用品は、毎食後消毒している。		食材の確認や消毒を徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に花を植えたり、畑作り等を家族や近隣の方がお手伝い、協力していただいている。ベンチを置いてゆっくり過ごせるようにしている。		入居者だけでなく、家族、近所の方もゆっくりできるようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や観葉植物を置き、絵や書を飾っている。調度品や物品は家庭的なものを使用している。		自然の光を取り入れ、落ち着いた空間作りをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	籐のいすを用意し、くつろげる雰囲気作りをしている。夏場は外にテーブルを置き、お茶を飲むなどしている。		ホームの中、外にくつろげる場面を用意している。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なじみの家具や家族の写真を用意し、安全性を考慮している。		安心できる雰囲気、居室作りをしている。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、換気を行い、温度、湿度の管理をしている。窓を開けたり、加湿器やタオルを濡らして掛けている。		暖房をこまめに調節したり、扇風機を使用している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手すりを設置し、廊下には物を置かないようにしている。バリアフリーにし、安全な環境作りに努めている。台所はIHクッキングにしている。		浴槽に取り付け式の手すりを設置し、入居者の状態に合わせている。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室に名前を用意し、トイレ、浴室に案内を表示している。		案内、掲示物は入居者の目線にしている。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	入居者とホームの周りの草取りをしたり、畑を作って、野菜を育てている。ベンチを設置し、ゆっくりできるようにしている。		花を見て、楽しんだり、職員と一緒に活動できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/>②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/>②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/>②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/>②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/>②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家族、近所の方が自由に出入りし、来やすい雰囲気である。ホームの行事だけでなく、日頃からホームのことで近所の方が手助けしてくれるような温かい地域の中で入居者は生活している。家族から新鮮な魚介類や野菜を差し入れて頂くなど日頃から交流が多い。